大庭寺遺跡
現地説明会

大阪府教育委員会
財団法人　大阪文化財センター

1990年11月17日

はじめに

大阪府教育委員会の指導の下、㈶大阪府埋蔵文化財協会と私達㈶大阪文化財センターは、堺市大庭寺から小代に広がる大庭寺遺跡の調査を分担して実施しております。私達の担当する地区は、大庭寺交差点からコウロギ橋までの周約500ｍです。なお、今回の調査は、日本道路公団が進めている近畿自動車道松原海南線建設に先立って行われているものです。

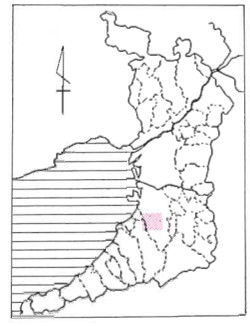
大庭寺遺跡は東側に石津川、西側にその支流の和田川が流れる栂丘陵に立地しており、今回の調査地は石津川側の中位段丘上に位置しています。標高は35～36ｍを測ります。

大庭寺遺跡の周辺では、発掘調査により旧石器から近世までの各時代の様子が徐々にわかってきました。旧石器から弥生時代の遺構や遺物が見つかっている遺跡としては、野々井、小阪、西浦橋、太平寺、菱木下などがあります。古墳時代では泉北丘陵一帯に須恵器という焼き物を作った窯跡（陶邑古窯址群）が多数見つかっています。規模では日本最大であり、泉北丘陵内にはこの時期の遺跡が数多く分布しています。西隣の野々井遺跡、北東の伏尾遺跡では集落や古墳、小阪遺跡や深田橋遺跡では須恵器を作り始めた頃の集落が見つかっております。また、光明池駅の南西方向にあります池田寺遺跡では７～９世紀の多くの建物跡が見つかっています。

調査の成果

大庭寺遺跡では、６～17世紀の人々の生活の跡が残されていました。

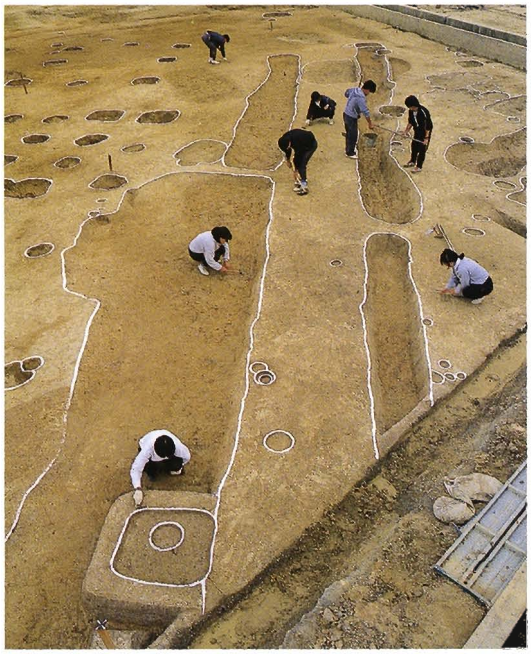
空からみた大庭寺遺跡（西から）



1. 大庭寺遺跡　2. 野々井遺跡
3. 野々井南遺跡　4. 牛石古墳群
5. 小谷遺跡　6. 豊田遺跡
7. 東山城遺跡　8. TK73窯跡
9. 二本木山古墳　10. 狐池南遺跡
11. 山田遺跡　12. 山田古墳群
13. 山田北遺跡　14. 鶴田池東遺跡
15. 西浦橋遺跡　16. 菱木下遺跡
17. 万崎池遺跡　18. 太平寺遺跡
19. 伏尾遺跡　20. 小阪遺跡

周辺の遺跡

古墳時代（6～7世紀前半）：多くの溝・土坑（ゴミ穴）・柱穴・建物跡が見つかり、その中から多量の須恵器が出土しています。B地区には長さ70mを超える南北方向の大きな溝があり、集落の西端を表していると思われます。須恵器は灰色をした硬い焼き物で、生活で使用された皿、蓋、壷、甕、甑（蒸し器）などがあります。大庭寺遺跡の周辺には陶邑古窯址群と呼ばれるこれら須恵器を焼いた窯がたくさん見つかっています。大庭寺遺跡からは焼け歪んだ須恵器や製作道具の「当て具」が出土しており、須恵器工人との関連も考えられます。また特殊な遺物として、勾玉が出土しています。瑪瑙という半透明をした赤褐色の石を使っており、長さ3.4㎝を測ります。この勾玉は古墳の副葬品として用いられたものと考えられ、近くに古墳があったことが推定されます。また、塼と呼ばれるレンガ状の焼き物も出土しており、古墳に使われたものでしょう。

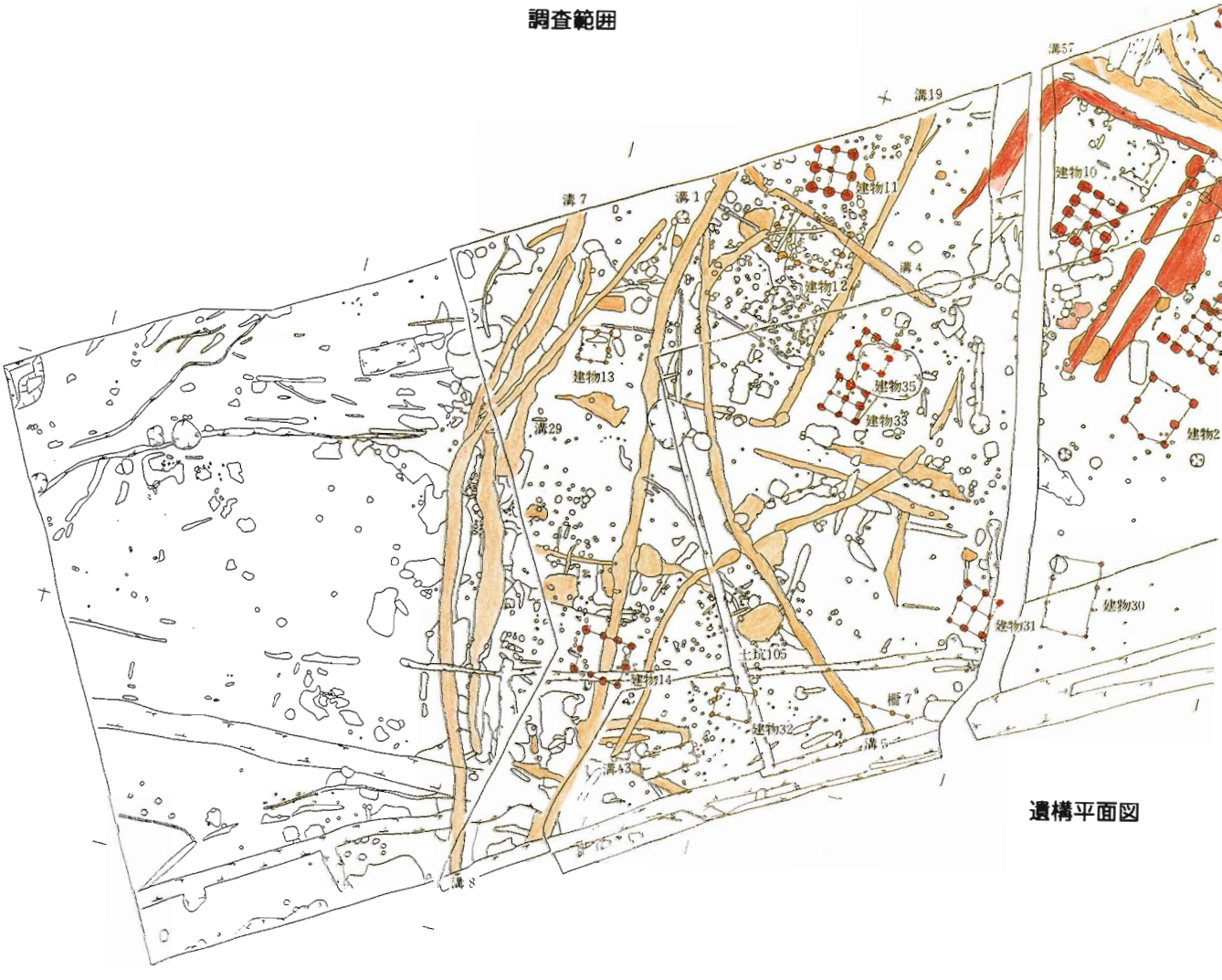


奈良時代の道路

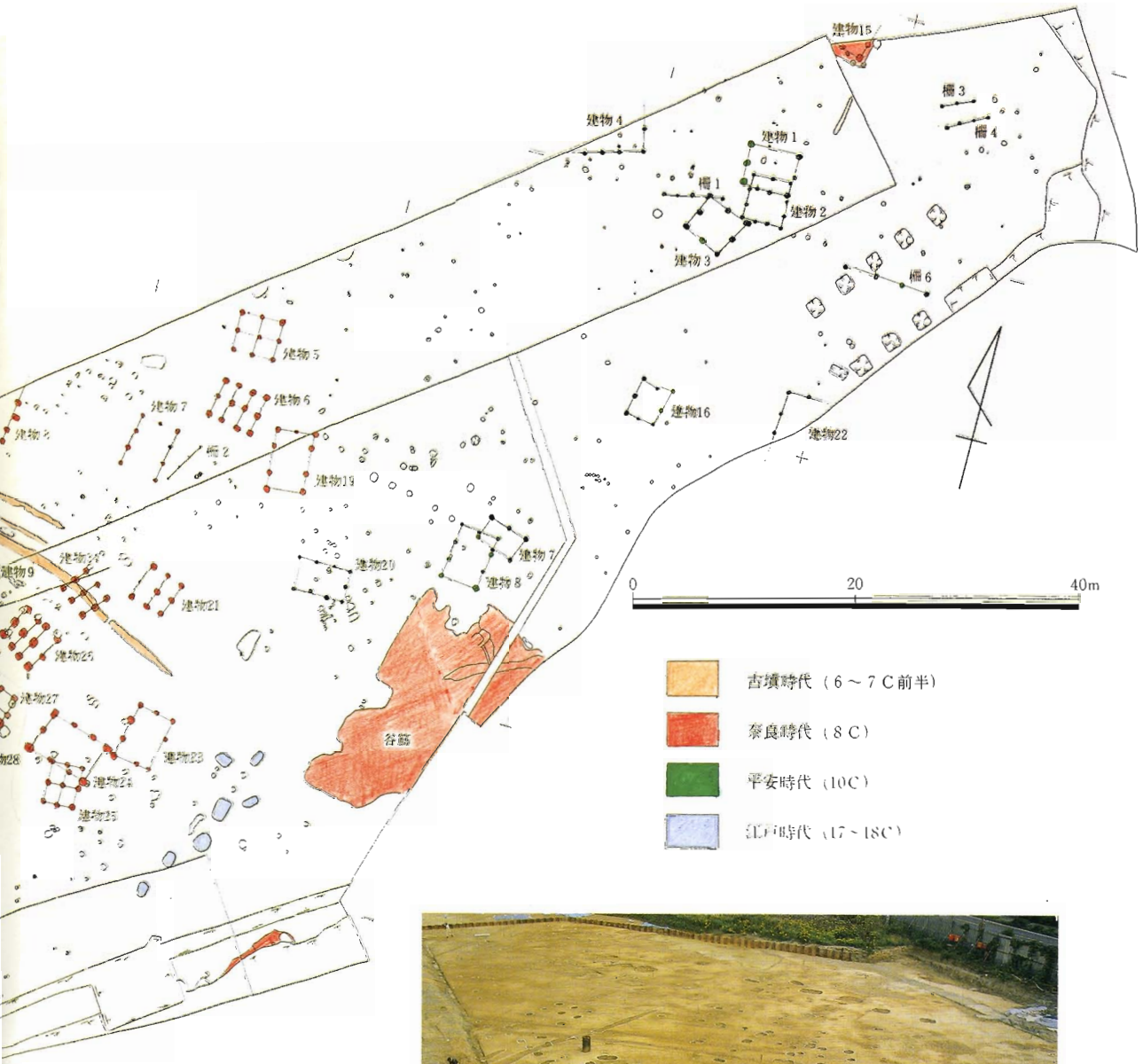
奈良時代（8世紀）：建物跡が20棟わかりました。そのうち10棟は総柱の建物で、倉庫と考えられ、建物10のように柱の直径が30㎝を測る大きな柱穴も見られます。建物10の東側には2

調査範囲
昨年度調査終了
今年度調査終了
濃登ノ池
2C
1C
3C
4B
3B
1B
2B
2A
3A
6A
1A
福泉中央小学校
桃山台団地
尾美濃池
松池
0
100m

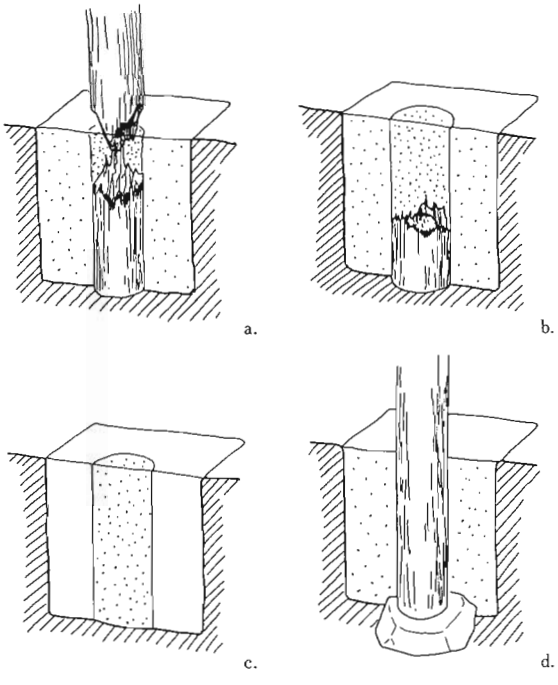
調査範囲


溝57
溝19
建物16
建物11
溝7
溝1
溝4
建物12
建物13
建物35
建物33
溝29
建物2
建物30
建物31
土坑105
建物14
柵7
建物32
溝6
溝43
溝8

遺構平面図


建物15
柵3
柵4
建物4
建物1
柵1
建物2
建物3
柵6
建物5
建物7
建物6
建物16
建物22
柵2
建物19
建物9
建物21
建物20
建物7
建物8
建物25
建物27
建物23
建物24
谷筋
0
20
40m
古墳時代（6～7C前半）
奈良時代（8C）
平安時代（10C）
江戸時代（17～18C）

奈良時代の建物群



柱穴の様子

a. 柱は地表部分が腐り、b. 底部のみが残る時がありますが、c. すべてが腐ってしまっても周りとの土の色の違いから柱の大きさがわかります。またdのように柱が沈まないように石を底に敷く柱穴もありました。

条の平行した溝があり、当時の道かもしれません。遺物には土器の他に硯（すずり）があります。皿の裏側を使ったり、「蹄脚硯（ていきゃくけん）」と呼ばれるりっぱな硯も出土しています。足の部分が馬のひずめの形をしているところからこのように呼ばれています。復元すれば直径18㎝ぐらいになります。このように大庭寺に住んでいた人々はりっぱな建物を持ち、また、文字を知っていた身分の高い人達だったようです。

平安時代（10世紀）：A地区の東側で、建物跡が10棟と柵が見つかりました。ただ、奈良時代の建物に比べて柱穴は小さいものです。総柱の建物（倉庫）はありませんでした。

鎌倉～室町時代（13～15世紀）：B地区において田畑の耕作時のものと思われる細い溝が見られます。

江戸時代（17世紀）：A地区中央部にお墓と考えられる縦 1.5m、横 1.0m、深さ 0.4mほどの大きな穴が７基見つかりました。

まとめ

古墳時代、奈良時代、平安時代、中世、近世の生活の跡が明らかにされました。

古墳時代には大規模な溝が掘られ、集落が営まれました。須恵器工人との関連が考えられます。奈良時代になると倉庫を伴った建物群が現れました。柱が大きくりっぱなもので、さらに文字を使用していたところから、庶民の集落とは考えにくいものです。住人は豪族クラスの人々が考えられ、平安時代の書物、『新撰姓氏録（しんせんしょうじろく）』に記載されている「大庭造（おばのみやつこ）」が想定されます。また、奈良時代の僧侶「行基（ぎょうき）」が創建した四十九院のひとつ「大庭院（おばいん）」が天平勝宝（てんぴょうしょうほう）二年（749）に建立されたことが『行基年譜（ぎょうきねんぷ）』に書かれており、この建立には大庭造がおおいに関わっていたでしょう。㈶大阪府埋蔵文化財協会の調査でも建物群が見つかっており、一帯に集落が広がっていたようです。この集落は、いったん途絶え、平安時代になると再び集落が営まれました。

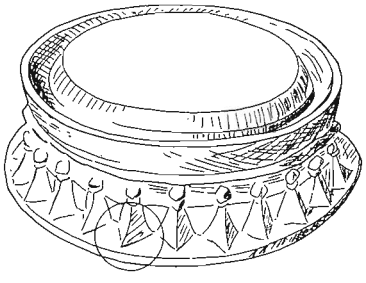
行基像

◀土坑（どこう）（ごみ穴）から出土した土器をきれいに掃除します。

▲出土した土器の状況を図面に記録します。

◀溝から出土した多くの土器（溝12）

勾玉



蹄脚硯（すずり）

出土した土器